

第1章 目的

ポイント!

目的

嗅覚測定法において精度管理を行うための様々な方策を示し、信頼性ある測定の実施を図る。

平成7年の悪臭防止法改正によって、人間の嗅覚を用いた測定法である“嗅覚測定法”による規制が導入され、さらにその後の法整備を経て、臭気指数及び臭気排出強度（OER）による悪臭規制が本格的に行われるようになった。この背景として、主な苦情発生源が従来の畜産農業・化学工場などから飲食店などのサービス業や住宅といった都市・生活型のものに移行してきたこと、その結果として物質濃度による規制では十分効果が認められない複合臭気に起因する悪臭に対処する必要性が出てきたことが挙げられる。この嗅覚測定法は、導入時に機器分析による物質濃度測定と比較して遜色ない程度の精度があることが確認されている。しかし、人間の嗅覚を用いるという点にそれまであまりなじみがなかったことから、測定結果の信頼性が広く認識されているとはいえ、嗅覚測定法の普及のためには、測定法の精度管理及び測定結果の信頼性の向上が必要不可欠となっている。また、国際的にも品質保証や品質管理に対する要望が高まってきており、科学・技術の発展に寄与してきた我が国としても、積極的にリーダーシップを発揮し、精度管理を考慮した嗅覚測定法の確立を図る必要がある。そこで、嗅覚測定法において精度管理を行うための様々な方策を示し、信頼性ある測定の実施を図ることを目的として本マニュアルを作成した。

注意

嗅覚測定法には、気体の臭気指数を求めるための三点比較式臭袋法及び排出水の臭気指数を求めるための三点比較式フラスコ法があるが、本マニュアルでは、まず第一歩として三点比較式臭袋法に焦点を絞って述べることとする。ただし、精度管理に関する基本的な考え方は両方法とも同様である。また、嗅覚測定法の実施手順については臭気指数測定マニュアル¹⁾や嗅覚測定法マニュアル²⁾（以下、併せて「測定マニュアル」とする。）が別に作成されており、装置・器具や基本操作について詳細な解説がなされていることから、本マニュアルの使用に先立って、まず測定マニュアルを読まれることをお勧めする。